南河内 歴史的建造物マップ

大阪狭山市

泉北丘陵と羽曳野丘陵の低い山間の広い谷間に位置する。飛鳥時代前期、ヤマト王権により日本最古のダム式ため池「狭山池」が築造される。奈良時代の行基、鎌倉時代の重源によるものや慶長年間などの大改修の歴史が残されている。中世から、高野街道・天野街道などが通る交通の要衝で、南北朝時代には池尻城が築かれた。江戸時代には、関東で勢威を振るった北条早雲を祖とする後北条氏の末裔が、この狭山の地に一万余石を領して陣屋を構えていた。また、西本願寺堺別院(堺北御坊)には、狭山藩の大手門が御成門として移築されている。

1 辻家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

狭山池北西の池之原に位置する。建築年代は主屋が明治12年頃、蔵などの附属屋は明治3年である。茅葺の大和棟で、落棟や庇は本瓦葺とし、南面して建つ。背面の水田から水田かうは、庄屋をつとめた社観な屋敷構えが見渡せる。四間取平面で式台玄関を備える。主屋、倉座門、高塀、米蔵などア棟が国登録有形文化財に登録されている。1970年代に内部東側の土間の架構は残しつつ、現代の暮らしに合うよう改造された。

2 松田家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

狭山池の南、栗英木(くみのき)に位置し、西高野街道沿いに豪壮な佇まいを見せる。江戸時代には秋元氏領の大庄屋を務めた家の住宅であった。建築年代は主屋が明治初期、蔵は明和とされる。主屋は入母屋造桟瓦葺のつし2階建て四間に広を基す。平面は中間下を設けた整形形式で、建築年代が古い式台玄関が張り出す。格式が整えられた貴賓な座敷飾りを備えた近代和風建築である。

A 池守 田中家住宅 ■非公開

狭山池の北、池尻中に位置する。江戸時代初期から昭和初期まで池守として狭山池の管理・運営に携わってきた。池尻村庄屋、狭山藩代官も務めており、館大な古文書や絵図を保管していた。主屋、奥座敷、蔵等があり、長屋門は文化6年(1809)の普請である。

B 大阪狭山市域の南海電鉄線下瓦造暗渠群

明治31年南海鉄道が河内長野まで延伸したが、築堤工事の際に道路や水路を通すため設置した煉瓦造のアーチ橋(暗渠)。後年の複線化拡張のため東面はコンクリートである。南海高野線狭山～大阪狭山市駅間に規模の異なる7カ所が点在する。土木学会選奨土木遺産に認定。

富田林市

南河内の中央に位置し、南北に貫流する石川を挟む平野部に古くからの居住の痕跡を数多く遺す。二上山周辺産のサヌカイトが喜志や中野で石器として生産され、各地に流通していた。社伝によると美具久留御魂(みぐくるみたま)神社の創建は崇神天皇期とされ、佐備神社は平安時代、錦織神社も定かではないがその創建は古い。また16世紀中頃、京都興正寺の証秀上人らによって建設された寺内町「富田林」は、一定の自治権を有しながら、府内でも有数の富の集積を誇る、南河内地域の中核を担った在郷町へと発展し、明治時代へと引き継がれていく。

3 錦織神社 重要文化財 ■内部非公開

この地域は古代錦部郡と呼ばれ錦を織る技術者の集落として、また用水の合流点として栄え、地域の守護神として室町時代正平18年(1363)に造営されたのがこの神社で、もと水郡神社と称した。本殿は三間入母屋造、総檜皮葺、漆塗の建物であり、軒唐破風に千鳥破風をのせた造形美に富んだ屋根は、希少価値が高く、後に国宝日光東照宮の拝殿にも採用されている。本殿及び両脇の摂社春日社、摂社天神社が重要文化財である。

4 龍泉寺 仁王門 重要文化財 ■公開

銀山東斜面中腹にたたずむ楽師如来を本尊とする高野山真言宗の寺院で、594年蘇我馬子による創建と伝えられる。仁王門は鎌倉時代のもので府内唯一現存する中世の八脚門である。門に収められた金剛力士立像と寺内に安置された聖徳太子立像は府指定文化財。金剛力士立像の胎内には建治元年(1275)の年号が残り、門のつくられた年代が推測できる。中世には現伽藍の東と南側に多くの子院(塔頭)が立ち並ぶ大寺院だったことがわかっている。

5 富田林興正寺別院 重要文化財 ■非公開

永禄3年(1560)証秀上人により創立。本堂・対面所・鐘楼・鼓楼、山門、御成門、附として築地塀3棟と合わせて重要文化財。本堂は寛永時代の貴重な遺構として指定された。それ以外に庫裏、座敷、長屋門を配する。山門は平成の調査において、伏見城から京都興正寺北門として移築後、安政4年(1857)寺内町へ再移築されたことが判明。柱間7間四方の現本堂は寛永15年(1638)、庫裏は文化7年(1810)の再建、同時に纏棟・鼓楼にも現存地に移された。

6 旧杉山家住宅 重要文化財 ■公開

現存する建物は、江戸時代前期に建てられた。昭和58年に市が購入し、江戸時代中期の形態に復元されている。主屋に比べると時代は新しいが、その他に蔵2棟が残されている。杉山家は、寺内町富田林の創設にかかわった八人衆の筆頭年寄であり、当初、屋号「わたや」として営み、江戸時代中期から酒造業を始め、大酒家として大きく発展した。かつて広大な敷地には、主屋、酒蔵、土蔵などが数棟が建てられていた。屋敷内部の造りも襖を凝らしたものになっている。

7 仲村家住宅 府指定文化財 ■非公開

現存している建物は、18世紀後半に建てられたもので、つし2階建ての主屋と別座敷の他、道具蔵、米蔵、醤油・酒物蔵等がある。正徳5年(1715)に酒造株を取得して以降、造り酒屋として繁栄した。寺内町の文化的景観を反映して、文人が訪れており、なかでも仲村家には、頼山陽や吉田松陰が訪れている。当家は、表通りに面して店の棟を構えている表屋造の遺構として貴重である。

8 葛原家住宅 南葛原別邸 国登録有形文化財 ■非公開

町内を東西に貫く堺町通の西端に位置し、南会所前に本宅がある。大正13年築。当時流行したコテージ風住宅の好例で、T字型に交差する急勾配切妻屋根に特徴がある。平面は中廊下式で、玄関、応接室、階段はセセッション式の意匠が施され、2階10畳和室は個性的な床脇りを持つ。数地内には、池泉庭園、ウナ、付属屋もあり、地域のランドマークとして注目される洋風住宅である。

9 杉田家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

石垣上にRC造高塀が巡る本邸は、昭和4年の建築。木造2階建、緑釉洋瓦葺寄棟屋根で、玄関ポーチを中央にほぼ対称形のクラシカルな西洋館。セセッション式のポーチ構成、装飾意匠、応接室の内装、スチールサッシには、近代技術を持つ建築家の関与が伺える。1階10畳和室は木格子欄間付ガラス引戸の広縁を巡らせ、2階和室は上質の用材使用、東面に和式内玄関、庭に白壁和瓦葺の蔵が建つ。

10 中内眼科医院 国登録有形文化財 ■非公開

大正13年頃に国分銀行の本社として建てられた鉄筋コンクリート造3階建の建物で大末組が施工している。その後、三和銀行富田林支店に転じ、昭和50年から中内眼科医院が所有し、活用されている。その時に鉄骨造2階建の居住部分が北側に増築されている。銀行建築は、重厚な建築が多いが、繊細で軽快なロマネスク様式でまとめられており、当時のこの町の勢いを伝えている。

11 富田林市立川西小学校教育歴史資料室 旧川西尋常小学校 国登録有形文化財 ■非公開

木造平屋建、瓦葺。昭和9年の室戸台風後の復興校舎である。教室の天井を船底天井とし、室内天井下に抉み方板を見せるなどの構造的な特徴がある。東側面に玄関ポーチを設け、半切妻の二重構造とするなどの意匠的な見所もあわせもつ。格子組欄間付の玄関や、板張りの廊下、明るいガラス窓など、昭和時代初期の学校建築の姿をそのまま留めている。昭和61年に教育歴史資料室として保存整備。

12 岩根家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

当地五軒家は富田林市羽曳野丘陵の西端に位置し、17世紀には廿山村の出郷として集落が形成された。主屋は江戸時代後期の建築だが、大正期に2階建てに改造されている。また、この時期に主屋西に奥座敷が増設された。当家は明治中期～昭和初期に敷地内で酒造業を営み、酒造蔵の遺構が残る。操業当時の大造棟を改装した茶室を含め、敷地内に8件の国登録有形文化財が在る。

13 桃花塾 ■非公開

大正5年当時大阪市天王寺区細工谷町にて開設された先駆的な知的障がい児者施設。現施設は昭和8年に建設され、翌年現在地へ移転された。本館は木造2階建寄棟造桟瓦葺、桁行10間、梁間6間で、南面に切妻の正面玄関ポーチを設ける。本館から渡り廊下で接続された教室棟は木造平屋建寄棟造桟瓦葺、桁行10間、梁間4間、本館・教室棟が国登録有形文化財となっている。

14 旧田中家住宅 国登録有形文化財 ■公開

明治25年に主屋、乾蔵、賀蔵などを建築。当初は廿楽地中央南側に主屋、北西側に乾蔵、その北に北蔵、主屋南東に賀蔵を配した、五屋根付板塀や漆喰を内壁を構えた邸宅風近代和風建築。主屋は桁行10間、梁間4間のつし2階建、屋根は東面切妻、西面入母屋の桟瓦葺、整形四間の農家型間取平面である。平成23年に免家後耐震改修をし、地域の文化的活動の場となっている。

富田林重要伝統的建造物保存地区

富田林寺内町は永禄年間(1558～70)初め、証秀上人により、興正寺別院を核として創建された宗教自治都市。石川の河岸段丘による土居、掘割によって区画され、現在も創建当時の穴筋七町の町割りが残る。平成9年富田林伝統的建造物群保存地区として決定。その後平成30年に保存地区を範囲拡大し、現在に至る。

河内長野市

府の東南部に位置し、市域は府内三番目に広く7割を自然豊かな山地が占める。その山地に源を発する石川や支流の谷沿いに高野街道などの街道が通じ、交通の要衝でもある。古代には、高向氏や錦部氏などの渡来系氏族が住み、大化改新で国博士となった高向玄理(たかむこのくろまろ)の出身地とも言われている。また、平安時代には高野街道等により密教文化が伝わり、観心寺・金剛寺に仏像等の美術工芸品や歴史的建造物が多く残されている。南北朝時代には南朝の拠点として行宮が両寺に置かれるなど、歴史と文化財の豊かなまちである。

15 岩瀬寺 重要文化財 市指定文化財 ■内部非公開

岩瀬寺は葛城修験28宿の行場で、明治22年に天台宗から融通念仏宗に転じた。重要文化財の多宝塔は天文22年(1553)の建立とされ、3間2層、中間4尺8寸、脇の間3尺2寸の規模を持つ、天文期の特徴を示すものの多宝塔としては簡素な構成で、下層は本柄(ときがら)が太く斗栱は力強さがあり、上層は細く繊細な印象も取れている。市指定文化財の本堂は宝形造、銅板葺で正面中央1間に向拝をつけ、正面3間、側面4間、周囲に縁をめぐらし縁柱が建つ。

16 山本家住宅 重要文化財 ■非公開

17世紀前半の建築と考えられ、全国的にも古い民家である。先進的な四間取の原型を残し、入母屋造茅葺で平入、規模は東西方向桁行6間、南北方向梁間4間に縁がつく、内部は折上上手半分を居室、下手半分を土間としている。居室は整形四間取で、表の下手にクチノマ、上手にザシキ、裏方の下手にダイドコ、上手にナンドが配されている。土間は下手の表にマヤ、その裏にカマヤ、居室に接してウチニワがあり、その後に板間を設けている。

17 左近家住宅 重要文化財 ■非公開

17世紀中葉の建築と考えられている。何回か改造を受け、現在は18世紀末の状態に復元されている。入母屋茅葺で妻入、桁行7間、梁間4間半。内部は妻から入ると右手にカマド、左手にマヤとヒヤが並ぶ、煙返し梁がなくカマヤは独立している。また、マヤには中二階のつりが造られている。居室は整形四間取で戸棚の位置以外は山本家と同じである。高頭造民家は珍しい、土間部の狭小な敷地から出入りがし易いよう妻入に造られている。

18 伝大江時親邸跡 府指定史跡 ■内部非公開

大江家の先祖には大江匡房(兵法書「闘戦経」著者・歌人)がおり、その7世孫の時親が当地に移住し、多聞丸と呼ばれていた幼少頃の楠木正成に兵法を教えたと伝わる。後に時親は安芸毛利氏の祖となる。現存する大江家住宅は18世紀前半の遺構。屋根は茅葺で庇は瓦葺、主屋の復元規模は桁行6間半、梁間4間、居室は整形四間取で、ナンドのみ4畳半、ほかの2室は6畳となる。

19 地蔵寺 府指定名勝 ■非公開

真言宗御室派。創建年代は不詳。元禄4年(1691)に名僧蓮体によって再建、本堂は享保5年(1720)に建られた三間四方の宝形造で元は茅葺、現在は正面一間の向拝が付き桟瓦葺。建物は蓮体に帰依した四国の豪商坂上族為の寄付。客殿は正徳5年(1715)に現在の姿に増頭年寄であり、当初、屋号「わたや」)として営み、江戸時代中期から酒造業を始め、大酒家として大きく発展した。かつて広大な敷地には、主屋、酒蔵、土蔵などが数棟が建てられていた。屋敷内部の造りも襖を凝らしたものになっている。

20 天神社 市指定文化財 ■内部非公開

滝畑七ヶ村の氏神で、元は大梵天王社と称されていた。本殿は三間社流造、梁間2間、板彩色が施され、屋根は檜皮葺であったが現在は銅板葺。正面中央間に軒唐破風を飾り、本棟に千木・勝男木を置く。興国6年(1345)の棟札が残されているが、現在の社殿は江戸時代前期の慶長・元和頃の再建。境内の木製灯籠(江戸時代末期)、長永4年(1460)銘のある鉄製湯釜は市指定文化財。

C 流合の農村景観

流谷・下天見地区は、平安時代に京都の石清水八幡宮の荘園となり、甲斐庄山麓に甲斐庄八幡宮が江戸時代の村絵図には、村の鎮守である八幡宮を中心として棚田や民家が展開する様子が描かれ、現在もその風景を受け継ぎ、中近世の歴史的な景観が雄弁されている。

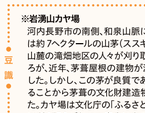
21 光滝寺 市指定名勝 ■内部非公開

融通念仏宗、以前は天台宗岩王寺末寺で慈城修験道の行場。境内には本堂と炭焼不動堂・庫裏がある。本堂は建替られたが桁行4間半、梁間3間、正面1間の向拝が付く、屋根は宝形造、銅板葺。炭焼不動堂は桁行2間、梁行2間半、寄棟で茅葺であったが現在は銅板葺。内部に像高207cmの炭焼不動を安置。境内には多宝小塔もあったようで、急怒形の二天が描かれた扉が残る。

22 梶谷家住宅 市指定文化財 ■公開

桁行8間、梁間5間の入母屋造茅葺妻入の鴻垣型民家。入口を入ると土間があり、居室は整形6間取、各室の表と妻側には縁側が設けられている。土間周りや仏壇と床の並置、ナンドの入口が狭いこと等から古い形式を保っており、18世紀後半の建築とされる。元は鴻垣清水にあり、鴻垣ダムの建設に伴い、昭和57年に河内長野市立滝畑ふるさと文化財の森センターの敷地内に移築。

23 南天苑 本館 国登録有形文化財 ■公開(営業)



天見川に沿うこの付近は、中世より温泉場として知られる。L字型平面、正面桁行27m の木造2階建、入母屋造桟瓦葺の本館は、大正2年に堺市に建設された辰野片岡建築事務所設計の「潮湯」の施設「家族湯」が、昭和10年に移築されたものである。1階南面のほぼ中央に玄関及びホールを配き、内部は客室を中心とした1階東南隅には大広間を設ける。近代の大規模和風建築の好例である。

※岩湧山カヤ場

河内長野市の南側、和泉山脈に属する標高 800m の岩湧山の山頂には約ヘクタールの山ススキの草原が広がる。この山原を住吉から山麓の滝畑地区の人々が刈り取って屋根を葺くのに利用していたところが、近年、茅葺屋根の建物が減少するとともに、地域での利用が激減した。しかし、この茅が良質であることや全国的にカヤ場が減少していることから茅葺の文化財建造物の屋根修理用に利用されるようになった。カヤ場は文化庁の「ふるさと文化財の森」に選定され、現在でも冬には刈り取りが行われ春先に火入をして維持されている。

千早赤阪村

府下最高点「金剛山」の西麓に位置する府内唯一の村である。金剛山頂には役行者ゆかりの「転法輪寺」、一言主大神を祀る「葛木神社」(共に住所は奈良県)がある。平安時代には観心寺の荘園が、鎌倉時代には武家の荘園が置かれたと考えられ、鎌倉末期から南北朝時代には「太平記」ゆかりの楠木氏の拠点があった。千早・赤阪城跡をはじめ、南北朝から戦国時代の山城跡が数多く残されている。江戸時代後半に、金剛山麓で「凍豆腐(高野豆腐)」の生産が始まり、近隣小藩の寺院時期などを経て、昭和初期までは全国の代表的な生産地であった。

24 建水分神社 重要文化財 国登録有形文化財 ■公開、本殿非公開

南河内最古の神社とされ、金剛山頓守の延喜式内社である。楠木家も氏神として尊崇し、建武元年(1334)正成再建の本殿は三殿からなり、中殿に一間社春日造、左右両殿に二間社流造を配し、各殿を渡廊で連結する他に例のない様式。明治33年に大阪府の神社建築として初めて特別保護建造物(旧国宝)に指定された。拝社の南木神社は楠木正成を祀り、昭和15年竣工の社殿は当時の官幣社建築に準じて設計され、国登録有形文化財。

25 山田家住宅 旧赤石家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

村の中心に位置する農家建築。主屋は桁行9間半、梁間5間規模の入母屋造桟瓦葺、木造つし2階建で、西端に縁屋根をもつ。平面は整形6間取。外壁に黒漆喰を用い、虫籠窓を設けるなど重厚なつくりである。他に座敷蔵が主屋南面に接してはぜ造方向に建つ。桁行6間、梁間2間半の切妻造桟瓦葺、平入の木造2階建で、たちが高く、外壁を真壁造、1階腰を板壁、上部を漆喰塗とする。

D 森屋のまちなみ

南河内の南部と大和(五条方面)を結ぶ街道のひとつである千早街道沿いにある集落で、旧石川郡の中心集落のひとつ。町場として古くから開け、中世末から近世には菜種・木綿・米の集散地として栄え、市が立っていた。近代には商店、病院、旅館料亭等が軒を並べ賑わった。

河南町

南北を千早赤阪村と太子町に挟まれ、町域の東側3分の1が金剛生駒紀泉国定公園に属し、西側の河南台地と呼ばれる地域は農村景観の自然豊かな町である。奈良県境の平石(ひらいし)峠を越えると竹内街道と合流する。古代、「近つ飛鳥」と呼ばれ歴史遺産も多く、渡来人と関係の深い約250基からなる一須賀(いちすが)古墳群や全国でも珍しい双円墳の金山古墳がある。また、南北朝時代の平石(ひらいわ)城跡や慈雲尊者の高貴寺、西行法師終焉の地である弘川寺、寺内町として栄えた大ヶ塚もある。

26 大念寺 府指定文化財 ■内部非公開

交通の要衝、大ケ塚集落の南東部に14世紀に開基、本堂は正保3年(1646)に再興され敲通念仏宗では府下最古である。表門と鐘楼ともの頃のものである。桁行18.6m、梁間15.3mの入母屋造本瓦葺、床は内・外共無畳敷である。当初は本堂が東向きであったが、寛文年間(1661～73)に現在の南向きに変更された。

27 弘川寺 府指定史跡 ■公開

7世紀半ばに役小角が開創、天武天皇勅願寺であり、空海が中興し真言宗寺院となる。平安末期に空寂が後鳥羽天皇の病気平癒祈願の功により、奥の院墓域令の扁額を賜る。同時期西行が訪れ入滅した。15世紀に盗山氏の争いで堂塔焼失し、江戸時代中期に似堂が西行の墳墓を発見し西行堂を建立した。文政4年(1821)の本堂(昭和33年移築)や府天然記念物の海棠があり桜の名所である。

E 大ケ塚

石川支流の河岸段丘上にあり、永禄年間初めには根来衆の村だった。根来衆敗退後、寺内町が形成され、17世紀後半から19世紀にかけて米や木綿の集積地として栄えた。町は大念寺のある南組、願證寺のある北組に分かれ、道路が直行しない町割りに戦国の名残が見られる。

※弘船と大神社と高貴寺

江戸時代の貴宗宗の高僧慈雲尊者は、衰微していた役小角開基とされる高貴寺を大和郡山藩主柳沢保光の支援を受けて再興した。彼は晩年、密教と結びついた独自の神道である慈雲神道を唱え、高貴寺の西側山中にその根本道場として磐船大神社の社殿を建立したとされる。

太子町

南河内の東北部、官道「竹内街道」が東西に通る、石川の支流・飛鳥川の流域で、近年「王陵の谷」とも呼ばれる「磯長(しなが)谷」界隈が町域にある。聖徳太子廟や、蘇我氏と関係の深い敏達・推古などの陵墓が点在する。平安時代に太子廟を護る叡福寺(上ノ太子)が建立され、太子信仰の中心霊場となる。また竹内街道は、大阪と奈良を結ぶ経済・情報の道として繁栄し、西国三十三ヶ所巡礼や伊勢詣りの参拝者で賑わい、三十三度行者の木地地(葉室組)としての仏眼寺や伊勢灯籠が多く残る。

28 叡福寺 重要文化財 府指定文化財 府指定史跡 ■公開

真言系単立の寺院で「上之太子」とも呼ばれ、境内は府指定史跡である。推古天皇により聖徳太子の陵墓守護のため建立され、聖武天皇により大加藍が整備される。信長の兵火を受け焼失したが、慶長8年(1603)秀頼により、戦山建築の特徴をよく示す、桁行3間、梁間5間、1間向拝、南面に突出部をもつ聖霊殿が再建され、承応元年(1652)再建の方3間の多宝塔と共に重要文化財である。又、江戸時代中期の再建になる金堂、鐘楼は府指定文化財に指定されている。

F 太子町山田 竹内街道沿いのまちなみ

当街道は「日本書紀」推古天皇21年(613)に記された「大道」とされる、難波津から東に河内・大和国境の二上山南麓の竹内峠を越え、京のある飛鳥を結ぶ、古代には大陸の先進文化が伝わり、中世末以降は近郊の物流を担い、また伊勢への参詣道として賑わった。

29 山本家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

大正3年建築の山本家住宅は聖徳太子の廟所叡福寺門前にあり、竹内街道に面して、長大な間口に2基棟を構えた表主屋は間口10間半、奥行4間半の大規模な2階建で、緩やかに起る大屋根は街道と調和を保ち存在感のあるものとなっている。絵様付きの方杖など細部も優秀。国登録有形文化財には主屋・蔵・東蔵・西蔵の4棟が登録されていて、街道側の歴史的景観に寄与している。

30 大道旧山本家住宅 国登録有形文化財 ■公開(土日祝)

主屋と、北西に連なる入母屋造桟瓦葺の離れ、東側の蔵が配置され、大和と堺を結ぶ竹内街道沿いの歴史的景観に寄与している。江戸時代末期と推定される主屋は、茅葺の切妻屋根の両側を本瓦葺とした「大和棟」であり、内部はドマ・ザシキ・シモミセなどを配する典型的な平面で構成されている。公開にあたり、近年の改装部分を取り除き、余り手を加えずかつての姿に復元されている。

松原市

大阪府のほぼ中央に位置し、南河内の玄関口にあたる。市域の北側を東西に大和川が流れる。難波と飛鳥を結ぶ官道をはじめ多くの街道が通り、茶屋が営まれるなど古くから交通の要衝である。市内には、5世紀前半築、反正天皇が「松生いし丹比の松原」(市名の由来)と謳ったと伝わる丹比柴籬宮の伝承地や、全国5番目の規模の河内大塚山古墳が残る。中世には、市域の南側から堺市美原区の一帯を鋳造技術者集団の河内鋳物師(いもじ)が本拠地とした。また、江戸時代には譜代大名の高木氏が丹南藩の陣屋を置いた。

31 布忍神社 本殿 府指定文化財 ■一部公開

本殿は一間社流造檜皮葺。木階裏に残された寛文3年(1663)の木札などから江戸時代初期(寛永年間)建造とされる。抜山緑青の壁式を受け継ぎ全体に木割が太く、虹梁に眼張りをとる。また、木鼻も大きく繰形の少ないものである。身舎側面板壁に唐草下絵、脇障子板に鳳人の下絵が残る。宝永2年(1705)に奉納された布忍八景扁額には境内が描かれており、当時の様子を知ることができる。

32 中山家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

近世後期の大庄屋の民家。長屋門、裏門、塀に囲まれた屋敷地内には、主屋のほか、多数の蔵、潤蔵、窯などが建つ、全国に広く分布する当時の屋敷構えが良く分かる。文化2年(1805)建築の主屋はつし2階建桟瓦葺、つし2階の外壁は大壁とって前庭風に作られている。桁行19間半、梁間5間と東西に長く、表中間に広い玄関が付く、典型的な整形四間取平面である。

33 田中家住宅 高見の里 国登録有形文化財 ■非公開

高見神社参道に面し、長屋門と外塀に囲われた屋敷地に主屋・二階蔵・離れが建つ。主屋は明治5年(1872)頃、他は昭和初期の建築である。主屋は入母屋造桟瓦葺のつし2階建。居室は整形四間取で、土間周りが広い、増改築はあるものの、原形をよくとどめている。白漆喰塗の外壁は、北辺のみ上部に出格子窓の開口をしつらえており、長屋門とともに参道の景観を形成している。

34 田中家住宅 南新町 国登録有形文化財 ■非公開

庄屋層の農家住宅で、移築改修により主屋と長屋門が残る。宝永6年(1709)の普請帳により、主屋がこの年に建築されたことがわかる。当初は茅葺屋根の身舎に本瓦葺を巡らせていたが、天保年間につし2階建、瓦葺となる。居室は仏間を有し納戸を突出させた角屋形式の五間取。文政年間には奥座敷や表の間を増築するなど大改造が行われている。長屋門はこの時期に建てられたものである。

35 鳴田家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

屋敷地内に江戸時代の主屋など諸建物が建ち、特に明治時代の建物が優れた近代和風建築。文開書院は主屋前方面に独立し、座敷の床に丸窓を開け、落掛を斜めに振るなど新斬な意匠の数寄屋である。奥座敷は、身舎側面板壁に唐草下絵、脇障子板に鳳人の下絵が残る。宝永2年(1705)に奉納された布忍八景扁額には境内が描かれており、当時の様子を知ることができる。

C 来迎寺 一部公開

融通念佛宗の中本山格寺院で、円南藩主高木氏の菩提寺。棟札によると、本堂は元文2年(1737)の再建。6間半四方の四周に1間通りの縁底をめぐらす。外陣奥行が3間と深い。また、脇仏壇間脇に庇を取り込み3間の奥行の間口を設ける、山門は、天保14年(1843)の再建。

H 立部周辺のまちなみ

飛鳥と難波を結ぶ日本最古の官道である竹内街道沿いに位置する。江戸時代にはかわらけの名産地で、円北柴籬宮に都を置いた18代反正天皇に土師器を献上した土師部の村が始まりとの伝説が残る。栄久寺(真宗大谷派)の周辺に江戸時代から明治時代の民家がわずかに残る。

※大阪狭道と天美車庫

柏原駅と長野駅間を結んでいた河南鉄道が大正8年に大阪鉄道と改称した。そして大正11年に道明寺駅から布忍駅間、さらに翌12年には大阪天王寺駅まで敷化された路線が開通した。そして同年には、天美車庫と駅(現河内天美駅)が設置された。この車庫の当初建物である機関庫扉が現在でも立入禁止区域内に一棟残されている。

※河内大塚山古墳

松原市と羽曳野市にまたがり、全国第5位の規模を誇る6世紀後半の前方後円墳である。百舌鳥・古市古墳群との中間に位置しながら、世界遺産リストからは外れている。中世には城が築かれ、江戸時代から前部には大塚村があり、後円部に天満宮が祀られていた。しかし、大正14年に陵墓参考地となり、村は強制移転された。

藤井寺市

南河内を南北に貫流する石川が、東からの大和川と合流する地域であり、律令時代には、河内国の国府がおかれたように、府内でもっとも早く文化が開かれたところのひとつといえる。旧石器～奈良時代にいたる国府(こう)遺跡などの複合遺跡が散在する。羽曳野市と当市にかけて広がる「古市古墳群」は世界遺産となっている。また、渡来系の葛井(ふじい)氏による葛井寺や、菅原道真ゆかりの道明寺・道明寺天満宮など文化財の宝庫である。巨石を運ぶ木そりの修羅(しゅら)や水鳥形埴輪などの出土品も良く知られている。

36 葛井寺 四脚門 重要文化財 ■公開

古代氏族葛井氏の氏寺として、7世紀後半の白鳳期に建立された。本尊の乾漆千手観音像座像は平安初期の傑品として国宝に指定(毎月18日公開日)。四脚門は南門として慶長6年(1601)秀頼により建立された。切妻造本瓦葺、妻虹梁には板蟇股を置き、大斗・実肘木で棟木を受ける。棟通りの中備は大瓶束として、頭貫を虹梁形にし、頭貫の木鼻や実肘木の繰形・絵様に桃山時代の特色がみられる。天明5年(1785)に西門として現在地に移された。真言宗御室派。

37 藤本家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

葛井寺の南大門から南へ約110mに表門がある。南北に通る道の東側に面した敷地は藤の納屋の駅前通りに沿って、東西に長く敷地をとる。表門を入ると正敷蔵があり、敷地のほぼ中央に主屋が建つ。桁行8間、梁間6間、木造平屋建の切妻造桟瓦葺、つし2階部分に長方形の虫籠窓がある。構造や意匠から明治中期代末期に存在し、明治時代に増築が何度かされて現在の姿になったと考えられる。

38 藤野家住宅 国登録有形文化財 ■非公開

葛井寺の南大門から東へ約70mに江戸時代に庄屋代官を務めた藤野家住宅がある。東西に通る道に面して表門があり、長屋、蔵などの建物と土塀によって屋敷地全体が囲まれており、表門から前庭の敷石を伝い敷地中ほどに主屋が建つ。主屋は、明治26年建築の木造平屋建、入母屋造桟瓦葺で、座敷を設ける。内部は六間取で、周側に縁側のある座敷からは風格のある回遊式庭園を眺めることができる。

※「道明寺(どうみょうじ)」と「道明寺天満宮」

土師(はじ)氏は、古墳の葬送儀礼を担った集団である。氏神として「土師神社」を、氏寺として「土師寺」を造立する。平安時代に入り、菅原氏・大江氏などに改姓する。菅原道真の大宰府下向の折、自邸と伝わる「十一面観音立像(国宝)」を遺した土師寺は、道真の没後、その号「道明」に因み「道明寺」と改称され、彼を天神として祀る天神信仰も造られた。後年、明治の神仏分離に際し、道明寺は東高野街道を挟んだ西側に移転。そのまま留まった土師神社も、昭和の中葉に「道明寺天満宮」と改称され現在に至る。

羽曳野市

なだらかな羽曳野丘陵と石川の河岸段丘により、市域は構成されている。応神天皇陵古墳や日本武尊にちなむ白鳥陵古墳など「古市古墳群(世界遺産)」の中核をなす。日本最古の八幡宮「誉田八幡宮」は、欽明天皇が応神天皇陵古墳の後円部頂頂に設けた朝廟が始まりと伝わる。また壺井の地には、前九年・後三年の役で源氏棟梁の地歩を固めた河内源氏三代(源頼信・頼義・義家)の墓所が建る。室町時代、守護職畠山氏は、安閑天皇陵古墳・東高野街道を取込んで高屋城を築き守護所とした。当市は、旧石器時代から残る歴史遺産が多く、貴重な文化財の宝庫といえる。

39 野中寺 国指定史跡 府指定文化財 ■非公開

「中の太子」と呼ばれている古刹である。丹治遠(後の竹内街道)沿いに南大門を備えた堂塔伽藍を備えた大寺院であったが、南北朝時代の兵火で焼失した。江戸時代に貴晋律宗の戒律道場として、本堂・薬師寺・経堂・鐘楼・地蔵堂・僧房などが再建された。境内の金堂跡などの飛鳥時代の創建伽藍の一部が国の史跡に指定され、僧房・客殿・食堂は府指定文化財の指定を受けている。

40 吉村家住宅 重要文化財 ■公開日あり

元和元年(1615)大坂夏の陣で焼失したが、直後に再建された。昭和12年に主屋が民家として日本で最初の旧国宝に指定された。(昭和25年に重要文化財に再指定)主屋は茅おぶ木瓦葺の大和棟で、桃山時代の書院造様式を残している。独特の風格と美しさを持っており、上殻の間、客間、居間、表の間、供部屋、たたき土間、カマヤ、大戸口、武者窓などよく残るべきところも多くある。広大な敷地には長屋門や土蔵、庭園など豪農の屋敷構えがよく残っている。

41 壺井八幡宮 府指定文化財 ■内部非公開

康平2年(1064)に源義家が石清水八幡宮の神霊をこの地に遷し祀った。摂社壺井権現社は河内源氏の崇敬として八幡宮の香煙を受けて再建された。本殿は三間社流造の檜皮葺、身舎では組物に丈の低い大斗肘木をもたため、建ちが高く、向拝も桂高を低く押えている。境内は府指定史跡。

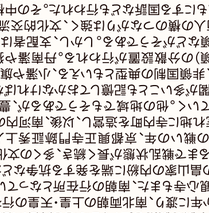
42 誉田八幡宮 放生橋 市指定文化財 ■公開

欽明天皇の時代に応神天皇陵前に誉田宗廟の神殿を建立したのが始まりである。江戸時代前期の建造とされる花崗岩製の反橋の放生橋(市指定文化財)は、近世の石造橋の建造技術を示す典型的かつ重要な作品。本殿は元文元年(1736)に建立された三間社入母屋造。拝殿は、桁行11間、梁間3間の入母屋造本瓦葺で慶長11年(1606)に再建、国宝の神輿や

南河内における真言密教の二大名刹

檜尾山観心寺境内及び天野山金剛寺境内は国指定史跡です。

1 檜尾山観心寺（ひのおさんかんしんじ） ■一部非公開



①金堂 室町時代前期 国宝

高野山真言宗遺跡本山。市域の東部、石見川の谷に位置する。寺伝では役小角の創建雲心寺が前身。平安時代前期、空海の一番弟子実恵が弟子真紹に造営させた。古代から中世にかけて多くの荘園をもち、子院50余りを有した。南北朝時代には南朝方の拠点となり、中院は楠木家の菩提寺であった。また、後村上天皇が行在所とし、陵が境内に築かれた。室町時代には河内守護職畠山氏の庇護を受け、江戸時代には大身旗本甲斐荘氏からも庇護を受けた。近代になって全国的に楠木正成顕彰が盛んになると、中院に大日本楠公会が設立されて盛んに活動が行われた。

境内は石見川の谷北側斜面を造成し、最上段から扇形に境内は広がる。上段に金堂、金堂の東側に建掛塔、鐘楼、宝蔵、阿弥陀堂、御影堂、行者堂、実恵廟と本願堂、金堂の西側一段下がったところに牛滝堂、そして恩賜講堂がある。さらに参道東側には鎮守社である祠実帝母天堂とさらに一段下がって拝殿がある。子院は大門のある段とその上の鎮守社拝殿のある段、さらに現大門より外、石見川にかけて分布していたようである。有力子院である楠木院の書院・持仏堂・庫裏などは大門の北西側に位置する。

②書院 重要文化財
江戸時代前期　正保4年(1647)

⑤恩賜講堂 重要文化財
昭和時代前期　昭和5年

⑧御影堂 府指定文化財
江戸時代前期

③祠実帝母天堂 重要文化財
室町時代後期

⑥大門 府指定文化財
江戸時代前期

⑨楠木院中門 府指定文化財
江戸時代前期

④建掛塔 重要文化財
室町時代後期

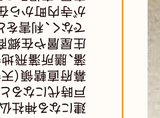
⑦本願堂(開山堂) 府指定文化財
江戸時代前期　正保3年(1646)

境内 国指定史跡

2 天野山金剛寺 ■一部非公開

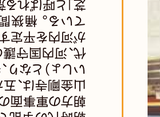
①金堂 鎌倉時代後期(慶長10年修理) 重要文化財

真言宗御室派大本山。市域の西南部、天野谷に位置する。寺伝では行基の創建。平安時代後期に僧阿観が再興。南北朝時代に南朝方の拠点となり一時南北両朝が同座した。室町時代には僧坊酒の天野酒が美酒として名を馳せた。境内は主要伽藍と100余りの子院群によって構成されていた。慶長10年、11年(1605、1606)に豊臣秀頼、元禄13年(1700)に幕府が大修理を行った。主要伽藍は築地に囲まれ、上壇、中壇、上々壇の3段に配置され、上壇には持国天・増長天(重要文化財)が安置された楼門と天野殿と称される食堂、そして池の南側に弁財天社・八大龍王善女龍王社・天照皇大神社が位置する。中壇には国宝三尊を安置する金堂、内部が極彩色の多宝塔、寺内唯一の禅宗様の鐘楼、経蔵がある。上々壇には弘法大師画像を祀る御影堂と付設された観月亭、渡廊でつながる五仏堂・薬師堂がある。御影堂の北側に法具蔵・護摩堂、護摩堂の背面に開山堂、薬師堂の背面に求聞持堂がある。これらの建物は軸線が通り、楼門と多宝塔、五仏堂、薬師堂は東向、食堂、金堂、御影堂は南面する。また、主要伽藍の対岸、天野山に丹生高野明神社、水分明神社が鎮座し、西麓に拝殿、中腹に鐘楼がある。子院では摩尼院書院や旧理趣院表門や旧真福院表門が残る。



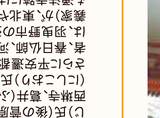
②御影堂 重要文化財
平安時代後期(慶長修理)

⑧摩尼院 重要文化財
江戸時代前期　慶長11年(1606)



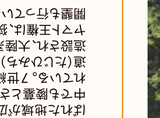
③観月亭 重要文化財
室町時代前期(慶長修理)

⑨薬師堂・⑩五仏堂 重要文化財
江戸時代前期　慶長11年(1606)



④楼門 重要文化財
鎌倉時代後期(慶長修理)

⑪求聞持堂 重要文化財
江戸時代中期　元禄13年(1700)



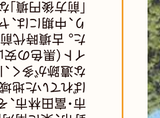
⑤鐘楼 重要文化財
室町時代前期(慶長修理)

⑫開山堂 重要文化財
江戸時代中期　元禄13年(1700)

⑮天照皇大神社本殿 重要文化財
江戸時代中期　元禄13年(1700)

⑱旧真福院表門 重要文化財
江戸時代中期

㉑無量寿院 国登録有形文化財
明治時代前期



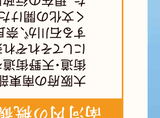
⑥多宝塔 重要文化財
平安時代後期(慶長修理)

⑬弁財天社本殿 重要文化財
江戸時代中期　元禄13年(1700)

⑯鎮守丹生高野明神社本殿 重要文化財
江戸時代初期　慶長11年(1606)

⑲総門 重要文化財
江戸時代中期　元禄13年(1700)

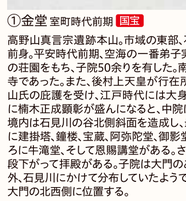
㉒本坊奥殿 国登録有形文化財
明治時代前期



⑦食堂 重要文化財
室町時代前期(慶長修理)

⑭八大龍王善女龍王社本殿 重要文化財
江戸時代中期　元禄13年(1700)

⑰旧理趣院表門 重要文化財
江戸時代中期頃

⑳大講堂 国登録有形文化財
昭和時代前期　昭和17年

境内 国指定史跡